

暮らしの知恵学ぶ機会



学校の勉強や部活動、塾通いなどに大忙しで、暮らしと直結した「生活」から切り離されてきた子どもたち。休校が長期化して家にいる時間が増えること、生活するとはどういうことなのか、地域の一員として生きるとはどういうことなのかが見えてくるはず。

布団干しや料理の下ごしらえ、溝掃除など、登校後に家の人がやってきていたことや近所付き合いを体験できるいい機会でもあります。いつもは会うことのなかった町内のおじいさんにあいさつしたり、1日の時間の使い方を学んだりすることで、暮らしの知恵を身につける

関西学院大学人間福祉学部教授 桜井智恵子さん



大阪生まれ。フィリピン大学留学後、2児を育てながら大阪市立大学大学院生活科学研究科で学ぶ。専門は教育社会学、思想史。川西市子どもの人権オンブズパーソン調査相談専門員。著書に「子どもの声を社会へ」(岩波新書)、「市民社会の家庭教育」(信山社)など。

こともできます。

新型コロナウイルスに関する

ニュースで報じられる大阪の取

り組みや各国首脳のリリーダシ

ップなどについて、親子で意見

を交わすのもいいでしょう。社

会的な話をする中で、親は子

どもの成長を知ることできるはず。

友達とも会えず、たくさん

の自習課題を与えられている子

どもたちも、明確な外出自粛の解

除時期が見えずにテレワークな

どで過ごしている保護者も、閉

ざされた空間ですと向き合っ
ていけば、ストレスがたまるの
は自然なこと。時には公園
に行ってみる、SNSを使って
親しい人と話してみるなど、適
度に外の世界とつながることも
大切です。

子どもはいつでもどこでも学

んでいる——ということも忘れ

ないでください。「自宅学習を

怠っていると勉強が遅れてしま

う」とか「受験に影響が出るの

では」とか親が心配して口出し

すると、子どもはさらに不安な

気持ちに陥ります。親があれこ

れ言う側に回るのではなく、子

どもの話にじっくりと耳を傾け

ましょう。

コロナ禍しているように見え

ても、子どもは感じたり考えた

りしています。いい点数をとっ

て競争社会を勝ち抜くため「頑

張り続けなければ」という考え

を少しだけ横に置いてみると、

心にゆとりが生まれます。

数か月間、学校に行けなくな

ったことで、親にも子にも過度

な不安を抱かせる日本の教育環

境のあり方を問い直すきっかけ

にもなるのではないでしょう

か。(聞き手・渋谷聖都子)